

2004年度
講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

第1008号

給養信画

日本放送出版

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学技術史		秋学期集中	4単位	松永俊男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>西洋科学の流れを概観し、日本における西洋科学の受容について述べる。</p> <p>西洋科学の源流は古代ギリシアにある。講義ではまず、ギリシアで科学が生まれた経過を探索し、ギリシア科学がイスラム文化圏で受け継がれ、発展した経過を追う。ついで、イスラム文化の導入により、ヨーロッパで科学革命が起こり、近代科学が発展していった経過を述べる。</p> <p>講義の後半では、江戸時代に主としてオランダ語を介して西洋の科学が日本に導入された経過を追い、明治以降の西洋科学の導入について考察する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古代ギリシアの科学 2. イスラムの科学 3. 12世紀ルネサンス 4. 17世紀科学革命 5. 18世紀の科学 6. 19世紀の科学 7. 20世紀の科学 8. 南蛮学、蘭学、洋学 9. 近代日本の科学 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>受講生は多くないと予想されるので、平常点のみで評価する予定。したがって、出席が重視される。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
技術社会学		通 期	4 単位	並 川 宏 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>技術は人間の活動＝生産的労働をより効果的に行うために工夫され、つくり出されたものである。それはつくり出した物、道具や機械などに物化しているが、道具や機械そのものではなく、それらによって測られる一つの概念であり、本来きわめて経済的社会的なものである。人間のみが道具をつくり、それを使って色々な物を生産する。人間の歴史は道具の歴史、物づくりの歴史である。人間の存在が技術を考えていく基盤である。</p> <p>科学・技術時代といわれる現在の経済社会をよく理解するためには、それを支え、影響する重要な要因の一つである技術の役割を正確に把握する必要がある。</p> <p>この講義では、人間の起源と技術、生産過程と労働過程、技術の概念、科学の発展、科学と技術の関係、道具から機械へ、機械の概念、工場制度の成立、機械体系からオートメーションへ、そして、戦後日本の技術革新について述べ、現代技術の社会との関わりを考える。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第1章. 人間の起源と技術(人間の存在が技術の基盤人間の属性 物づくりが人間をつくるなど)、</p> <p>第2章. 生産過程・労働過程(生産の自然的・社会的側面 労働過程の3要素)、</p> <p>第3章. 技術の概念(学説の紹介 技術の定義)、</p> <p>第4章. 科学の発展(科学とは 科学と労働 科学のはじまり)、</p> <p>第5章. 科学と技術の発展(科学と技術、技術の社会依存性と自律性 物づくりの歴史と科学の発達)、</p> <p>第6章. 機械と大工業(機械制大工業勃興期の技術、機械の概念、機械体系)、</p> <p>第7章. オートメーション(機械化の発展段階 オートメーションの特質、前提、技術史的意義)、</p> <p>第8章. 戦後日本経済と技術革新(技術革新の展開過程 技術貿易 日本技術の特質)を講義する。</p> <p>第9章. 現代技術と社会(家庭電化製品・自動車・情報通信機器等の社会への影響)について考える。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートの提出を課す。期末に試験をする。</p> <p>試験の点数とレポートの評価で成績をつける。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>最初の授業の日に、各章ごとの参考文献を示す。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代技術論		秋学期集中	4単位	辻 洋一郎
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>技術革新は、経済のみならず社会進歩の原動力です。特に最近では、製造業だけでなく、流通やサービス、物流や金融の現場でも新規技術がわからないと就職してから困ることが多いのが現状です。製造業に進む人でなくても技術を毛嫌いしていると損をすることが多いのです。逆に、『技術の考え方』を理解すれば、文科系でも理科系に負けない企画やビジネスチャンスをもたせることも可能です。この講義では、現代技術/技能のイメージを、具体例をもとに理解して戴き、恐怖心をなくすることを第一目標にしています。さらに細かい知識ではなく、『技術の成り立ちの構図』や『技術的思考方』を理解することを目指します。</p>		<p>【講義計画】</p> <p>① 経済を支える技術革新 ② 技術の歴史と進化 ③ 技術と製品・マーケット ④ ヒット商品にみる技術 ⑤ さまざまな技術/技能の具体例 ⑥ 技術の進歩/技能の進化 ⑦ 技術/製品の作られ方 ⑧ 技術の限界 ⑨ 技術と社会 ⑩ 技術を取り巻く要因 ⑪ 技術的思考方</p> <p>(順序及び回数は不同)</p>		
<p>【成績評価の方法】</p> <p>学期末試験の成績、またはレポートによって評価します。</p>		<p>【参考文献】</p> <p>講義中に都度推奨、指示します。</p>		
<p>【教科書】</p> <p>特に指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化史		春学期集中	4単位	梅山秀幸
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>桃山学院の近くの久保惣美術館には重要文化財の『伊勢物語絵巻』がある。その『伊勢物語』の中で高らかに称えられる「みやび」の美意識は「ひなび」との対比の上で成り立った美意識である。端的に言えば、それは都風の恋愛作法を意味するが、それが洗練されて『源氏物語』の「もののあはれ」となり、さらに深まり、爛熟して行き場もなくなって退廃していく姿を『とはずがたり』の中に見ていきたい。隣の朝鮮王朝にも宮廷文学はあったが、それは恋愛あるいは姦通を扱わない。主題は党争であり、「ハン=恨」の世界が繰り広げられる。朝鮮の宮廷物語をも紹介しながら、日本の恋愛の文化史的な意義を考えてみたい。</p>		<p>【講義計画】</p> <p>1、久保惣美術館の『伊勢物語絵巻』 2、「みやび」と「ひなび」 3、宮廷風恋愛 (amour courtois) 4、『源氏物語』と姦通 5、「もののあはれ」 6、『大鏡』の「やまとだましる」 7、『とはずがたり』のモラルと関東武士の「妻敵討ち」 8、朝鮮宮廷小説 9、「ハン=恨」と「もののあはれ」</p>		
<p>【成績評価の方法】</p> <p>期末試験による。出席も考慮する。</p>		<p>【参考文献】</p> <p>授業時に指示します</p>		
<p>【教科書】</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学概論		通 期	4 単位	大 石 正 晴
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>言語学は、「言語とは何か」とか、「言語はどのように働くか」という根本的な問いに答えようとする学問である。もう少し厳密に言えば、言語の本質・構造・他の文化現象との関連・および言語の歴史的变化の研究等を目的とするものである。</p> <p>人間の生活に占める言語の役割は極めて重要であることは言うまでもないが、特に、人間の知的活動のすべては、根源的には言語と密接に結びついているといえる。従って、言語という信号体系を、それを構成する諸要素、即ち、音・語・文・意味等を体系的に明らかにし理解しておくことは、言語使用の面から見ても極めて意義のあることであろう。</p> <p>本講義では次のような問題点も含めてみていくことにする。即ち、『すべての言語に共通する特徴は何か』、『人間の言語と動物の伝達にはどのような違いがあるか』、『人間の言語習得の原理は何か』、『社会構造の違いがどのように言語に反映するか』、『言語の使用にはどのような問題があり、それをどのように解決すればよいか』などである。</p> <p>言語の解明を通して人間や文化の根底にあるものの理解にまで到達できればと願っている。</p>	<p>次の諸問題を中心に考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語とは何か ・ 言語の内部構造—音・語・文・意味等 ・ 言語使用の問題—聞き手と話し手が絡むコミュニケーションに働く一般的な原則・原理・手段等 ・ 言語の外側をとりまくもの—言語と社会・言語と心等 ・ 言語の変化—変化の様相・要因等 ・ 普遍文法 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
試験と講義への出席度による。	『現代の言語学』（金星堂）、「言語学百科事典」（大修館書店）他、適宜紹介する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
応用言語学		秋学期集中	4 単位	橋 内 武
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>応用言語学は、1940年代後半から50年代前半にかけて言語学の真言語教育への応用として成立したが、現在では学際的言語学として言語学と隣接科学の中間領域に位置づけられている。その他に、言語問題の学という立場や「ことばの職業」研究であるという立場もあり、一筋縄ではいかないのが、応用言語学である。本講では、これら4つの応用言語学についての基本事項を講ずることをもって応用言語学への誘いとする。履修者にことばの多面性に気付いてもらい、将来日本語教師や言語聴覚士などのことばの職業に就くために必要なことばに対する見方を養ってもらおうことが、学習目標となる。</p>	<p>1. 応用言語学とは何か — 課題と方法</p> <p>2. 言語問題の学 — 言語障害、言語の消滅、ことばの乱れ、誤訳</p> <p>3. 真言語教育学 — 教授法、教師・学習者、教材、辞書、評価</p> <p>4. 学際的言語学 — 神経言語学、心理言語学、人類言語学、社会言語学、法言語学、経済言語学など</p> <p>5. 「ことばの職業」研究 — 日本語教師、言語聴覚士、通訳英語教員</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
期末試験による。	<p>白畑知彦ほか著、「英語教育用語辞典」、大修館書店、1999。</p> <p>ジョンソン・ジョンソン編（岡秀夫監訳）、「外国語教育学大辞典」大修館書店、1999。</p>			
[教科書]				
なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会言語学		通期	4 単位	大原 始子
[講義概要・学習目標]	<p>日常、「ことば」は人間にとって空気のような存在であるため、その変化や使用の様子に注意を向けずにいることが多い。社会的要因と深く関わりながら、「ことば」は様々な姿を変えて存在し、日々変化している。また、話し手は、所属する文化や社会の慣習にそって、「状況」、「相手」、「話題」にふさわしい「ことば」を選択している。このように、言語、変種、スタイルについて、誰が、どこで、どのように使い分けるかに注目し、分析していく研究が社会言語学である。</p> <p>本講義では、前期は、多様な言語社会の形態を知ること重点を置き、マクロ的な側面を学習していく。後期は、言語の多様性と語用論的分析などミクロ的な研究を紹介しながら進めていく。専門的な内容に入るため、言語学、英語学の基礎知識があることが望ましい。社会学、文化人類学、社会心理学などと深く関わる学際的な学問領域なので、幅広い関心を持って、講義に取り組んでほしい。</p>			
[成績評価の方法]	<p>前期、後期終了時に、論述試験を行う。講義中に出すレポートの成績も評価に加える。</p>			
[教科書]	『社会言語学への招待』田中春美 著 (ミネルヴァ書房)			
	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 言語と方言；国語、公用語、共通語、標準語 「日本における第二公用語化」 アメリカ、オーストラリア、アジア、アフリカの社会言語学的言語状況 バイリンガルとダイグロシア ビジョンとクレオール 言語とアイデンティティ 言語計画</p> <p><後期> 言語変種の地域差、世代差、男女差、階層差 日本語アクセントの平板化 ら抜き言葉 協調の原理 ポライトネス理論と敬意表現 借用語</p>			
	<p>[参考文献]</p> <p>その都度、プリントして配布、または指示する。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
音声学・音韻論		春学期集中	4 単位	南 條 健 助
[講義概要・学習目標]	<p>音声学 (phonetics) とは、音声を科学的に研究する言語科学 (linguistic sciences) の一分野であり、同時に、あらゆる音声を正確に聞き分け、かつ発音し分けることができる、いわば職人芸 (art) でもある。また、イギリス学派音声学 (British school of phonetics) では、音韻論 (phonology) も音声学の一部であると見做される。</p> <p>この授業では、イギリス学派の伝統である実践音声学 (practical phonetics) というやり方によって、標準的なアメリカ英語の音声を、主として調音 (articulation) の面から研究する。実践音声学の手法を用いるためには、まず初めに、たとえ日本人であっても、アメリカ人と区別がつかないくらい、アメリカ人そっくりの発音ができる技能を身につけなければならない。授業では、どうすればそういう発音ができるようになるのかを詳しく解説し、そのための音声学訓練 (phonetic training) に、多くの時間を割くつもりである。また、そのような訓練と並行して、毎回少しずつ音声学の理論と英語の音声事実を勉強していくことにしたい。</p>			
[成績評価の方法]	<p>原則として、定期試験 (80%) と提出課題や小テスト (20%) を総合して評価する。定期試験では、欠かさず授業に出席して、きちんとノートを取っていないと解答できない問題を出題する。また、8回以上欠席した者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする学生には即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。</p>			
[教科書]	開講時まで指定する。			
	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に紹介する。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
異文化間コミュニケーション論	01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	遠 山 淳
<p>[講義概要・学習目標] 講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーションなどについて講義し、文明と文化、普遍文化と個別文化との関係、異文化理解、文化変容、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。また英語・日本語教員志望者に配慮し、英米人のコミュニケーション特性についても講義する。</p> <p>情報は文化を生成し、文化は人間に対して常に規範的に係わる。異文化理解も自文化からの自文化的な「理解」である。さて諸君はどこまで自文化を越えられるだろうか。</p>	<p>[講義計画] 1. 異文化間コミュニケーション論とは 2. 「文化」とは：静態と動態、定義、情報代謝理論 3. 自文化中心主義と文化相対主義 4. コミュニケーションの志向性と型、動因と文化型 5. 言語と文化：エティックとイーミック 6. 非言語コミュニケーション 7. コミュニケーション能力と言語能力 8. コミュニケーションの文化型：片立型文化と両立型文化 9-10. コミュニケーションの比較：日本とアメリカ 11. 「理解」法の文化比較：「わかる」こと、言行の一致と乖離 12. 定量的方法と定性的方法、特徴と限界</p>			
<p>[成績評価の方法] 期末に試験/レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献] 遠山他著・石井橋本編『日本人のコミュニケーション』桐原書店、1993 古田暁編・石井・久米他著『異文化コミュニケーション』有斐閣、1987</p>			
<p>[教科書] 遠山共編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣、1998</p>	<p>祖父江孝男『文化人類学入門 増補改訂版』中公新書、1992 遠山他編著『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣、2001</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本文化論		秋学期集中	4単位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標] ナショナリズムには様々な側面から論じられるが、そのもっともソフトな形態として「文化ナショナリズム」がある。近代社会においては、日本に限らず、文化を通してナショナリズムを喚起し、補強していくことがなされるのだ。本講義では、その「文化としての日本主義」について、様々な歴史過程のなかで、それが果たした役割について論ずる。</p> <p>扱う対象は主に戦後の日本社会で行われた「日本文化」についての様々な言説（いわゆる日本文化論）だが、前近代（江戸・中世・古代）へと適宜時代を遡らせて、世界でもまれに見る完璧な「国民国家」が創出されていく過程をたどることになるだろう。</p>	<p>[講義計画] 1. 自己言及について 2. 『菊と刀』の前と後 3. 象徴天皇制の歴史文化的起源</p>			
<p>[成績評価の方法] 2度行う試験の成績と、出席状況とを合わせて評価する。</p>	<p>[参考文献] 南博著『日本人論－明治から今日まで－』（岩波・1994） 青木保『日本文化論の変容』（中央公論・1990） 吉野耕作『文化ナショナリズムの社会学』（名大出版・1997）</p>			
<p>[教科書] 深沢徹著『自己言及テキストの系譜学』（森話社・2002）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語学概論		秋学期集中	4 単位	有川康二
<p>[講義概要・学習目標] 日本語学習者の質問。「は」に濁点がつくと、「ば」。でも、何故「な」に濁点をつけて「なゝ」にしても発音できないの？「大型」は「おおがた」。でも、何故「大風」は「おおがぜ」と言わないの？「病気の人」とは言うけど、何故「元気の人」とは言わないの？「猫が金魚が食べた」は変だけど、この時、頭の中の中ではどんなことが起こっているの？ 日本語話者なら誰でも日本語を自由に「使える」が、その仕組みを体系的に「説明」できない。（誰でも脳味噌は使えるが、そのメカニズムは説明できない。）「経験科学」の手法を用いてヒト脳言語野のメカニズムを探る。科学は、誰もが当たり前過ぎて考えるのも馬鹿らしいと思う事柄に驚嘆することから始まる。その意味では、「自然言語（ことばをしゃべる）」は「重力（ものが落ちる）」や「光（明るい・暗い）」とともに科学の格好の対象である。 日本語を三つの視点から概論する。（1）生物言語学の視点＝自然が創り上げた脳の創発的自己組織化の過程で出現した自然言語の一般的性質とは何か？（2）日本語教育学の視点＝日本語を外国語として学ぶ人々にとって日本語の客観的な説明とは何か？（3）哲学的視点＝私とは何者なのか？私はこの宇宙の中で何をしながら死を待っているのか？（こんなことは大学とお寺でしか言われないので我慢してください。）</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 音特徴情報処理のインターフェースにおける原理とメカニズム（簡単に言えば「音」の問題） 文全体の意味特徴情報処理のインターフェースに至る過程から音特徴が剥ぎ取られた後、音特徴情報処理インターフェースに至る早い段階における原理とメカニズム（簡単に言えば「単語」の問題） 文全体の意味特徴情報処理のインターフェースに至るまでの構造形成の過程における原理とメカニズム（簡単に言えば「文」の問題） 			
<p>[成績評価の方法] 出席・筆記試験</p>	<p>[参考文献] 井上和子・原田かづ子・阿部泰明『生成言語学入門』大修館書店</p>			
<p>[教科書] 上山あゆみ『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』（くろしお出版）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法論		秋学期集中	4 単位	有川康二
<p>[講義概要・学習目標] ここでは、ヒト脳の自然言語計算処理過程に関わる3つの特徴（音特徴、意味特徴、構造特徴）のうち、意味特徴と構造特徴に焦点をあてて議論する。日本語の母語話者の文法性反応を使用して思考実験を行う。ヒト脳という複雑系において出現した自然言語における構造とは何か？ヒトの幼児がどの言語でも努力なしに獲得できるのは何故か？一致現象は英語にはあるが、日本語にはないと言われるが、本当か？一致現象とは何か？日本語には主語はないと言われるが、本当か？主語とは何か？「は」と「が」の違いは何か？「昨日、御飯、食べた？」に対する否定の答えは「いや、食べなかった」だが、「もう御飯、食べた？」に対しては「いや、まだ食べなかった」は変だ。「まだ食べていない」である。何故か？「猫が金魚を食べた」と「金魚が猫に食べられた」は何がどう違うのか？「私は猫に金魚を食べられた」と何がどう違うのか？これらの文は、頭の中でどのように形成され、解釈されているのか？英語の疑問詞は文頭に動き（What did Mary buy?）、日本語では動かない（花子は何を買ったの?）と言われるが、本当か？自然が創造したヒト脳に関わる自然法則や計算処理のメカニズムを、日本語という自然言語の観察を通して吟味する。日本語学概論、英語統語論、言語習得論、数学、生物学、自然科学関連の講義も受講することが望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> 日本語のきまりと仕組み 文の構成要素とその種類分け 「こと」の類型（述語の種類とその補語との結びつき） 「主語」「主格」「主題」 述語の活用 テンス・アスペクト 態（ヴォイス—格と動詞の形との相関） 心的態度（ムード）の表現			
<p>[成績評価の方法] 出席・筆記試験</p>	<p>[参考文献] 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味I』（くろしお出版） 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味II』（くろしお出版） 寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味III』（くろしお出版）</p>			
<p>[教科書] 寺村秀夫『日本語の文法（上）』（国立国語研究所） 寺村秀夫『日本語の文法（下）』（国立国語研究所）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
語彙・意味論		春学期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標] ことばによる表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げる ことであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普 通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段と して、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、 このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりの ことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。 この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を 分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみた い。	[講義計画] 1. 単語と語彙 1) 単語とは 2) 語彙とは 3) 語形 2. 語の数 1) 基礎語彙と基本語彙 2) 使用語彙と理解語彙 3) 語数とカバー率 3. 語の種類 4. 語構成と造語法 1) 語の構成成分 2) 造語法 3) 造語に伴う音声変化 5. 語の意味 6. 意味に関する問題点 7. 語彙教育のポイント			
[成績評価の方法] 定期試験（半期科目であるので、前期1回）により評価する。 くわしくは、授業初回に説明する。	[参考文献] 浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック⑤語彙』 （国際交流基金／凡人社）			
[教科書] 森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』 （おうふう）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文字・表記論		秋学期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標] 言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別 できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、 日本語の場合はどうなっているのか、内閣告示された基準をもとに考えていく。 日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑であ る。例えば、平仮名ひとつとっても、「こんにちわ／こんにちは」「そのとう り／そのとおり」「ぬのじ／ぬのぢ」のどちらの表記が正しいか、自信を持っ て言えるだろうか。 外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネッ クになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師 に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならな い点などを考えていきたい。	[講義計画] 1. 日本語の表記法と基準 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」） 2) 平仮名の表記法（「現代仮名遣い」） 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」） 4) 送り仮名の付け形 5) ローマ字の種類と表記法 2. 文字に関する知識 1) 漢字（の成り立ち） （六書、部首、画数、字形等） 2) 仮名（の成り立ち） （真名、平仮名、片仮名等）			
[成績評価の方法] 定期試験（半期科目であるので、後期1回）により評価する。 詳しくは、授業初回に説明する。	[参考文献] 清水義昭（編）『概説 日本語学・日本語教育』（おうふう）			
[教科書] 富田隆行・真田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック②新・表記』 （国際交流基金／凡人社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅰ		秋学期集中	4単位	有川康二
<p>[講義概要・学習目標] どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師にとっての）実践的な文法整理と、（学習者にとって）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。</p> <p>一定の制限された状況（＝教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間の約6か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別な知識と技術が必要となる。何語でもそうだが、ある言葉が話せることと、その言葉を外国語として他者に体系的、説得的に教えることができる能力とは別物である。同時に、「何故、自分は外国語を学ぶのか？何故、自分は日本語を外国語として教えるのか？」という問いを問い続けなくてはならない。</p>	<p>[講義計画]</p> 指示表現（こそあと） 形容詞 存在表現 時制（テンス） 保留形（テ形） 願望の助動詞ta/gar 可能の助動詞e/rare 様態・推量の助動詞soo/yooda/rasii テイル・テアル・テオク（窓が開いている・開けてある・窓を開けておく） 授受表現（やる・あげる・もらう） 態（受身・使役・使役受身） 条件表現（雨が降ったら・降るなら・降れば・降ると） 敬語（お読みになる・お読みする・なさる・いたす）			
<p>[成績評価の方法]</p> 出席・筆記試験	<p>[参考文献]</p> 三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社）			
<p>[教科書]</p> 東京YMCA日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ		通 期	4単位	友 沢 昭 江
<p>[講義概要・学習目標]</p> 日本語学習者の多様化に対応するために、さまざまな教授法が導入され、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教授法や教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。本講では主要な教授法について考察し、具体的な教授項目を示しながら、それが教科書でどのように導入されるかを紹介します。さらには現在使用されている主要な教科書の特徴の分析をグループに分かれて行います。	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな外国語教授法と日本語教育 ・コースデザイン ・教室活動—初級の教え方（発音／会話、文字／読解） 中上級の教え方（会話／聴解、読解／情報収集） ・教科書・教材の分析 			
<p>[成績評価の方法]</p> 春学期末と学年末に試験を行います。それ以外にも授業への参加の姿勢、与えられた課題にしたがったレポート作成、グループによる発表、および出席状況を総合的に考慮して評価を行います。	<p>[参考文献]</p> 『はじめての日本語教育1：日本語教育の基礎知識』（高見澤孟、アスク） 『はじめての日本語教育2：日本語教育入門』（高見澤孟、アスク） 『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社） 『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑥、丸山敬介、凡人社） 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（松岡弘監修、庵功雄他 著、スリーエーネットワーク） 『中上級を教える人のための日本語ハンドブック』（白川博之監修、庵功雄他 著、スリーエーネットワーク）			
<p>[教科書]</p> 『よくわかる教授法』（小林ミナ、アルク）				

「英語 I A」 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 (春)	釣井千恵	〈スポーツ推薦クラス〉	Casey Malarcher	<i>Reading Advantage 1</i>	Thomson
11 (春)	大橋範子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉		プリント配布	
12 (春)	岩永道子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Minoru Ohtsuki	<i>News for You</i>	成美堂
21 (秋)	伊藤貞基	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	L.A. Hill Toshio Shinozawa	『Take 20 総合演習』 (<i>College Comprehensive Course</i>)	桐原書店
22 (秋)	大橋範子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉		プリント配布	
23 (秋)	岩永道子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Minoru Ohtsuki	<i>News for You</i>	成美堂
24 (秋)	西崎和子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Patricia Kaye Flanigan	<i>Focus on Listening Part I</i>	松柏社
25 (秋)	Sandra Healy	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	S. Cunningham P. Moor	1. <i>Cutting Edge Starter-Students Book</i> 2. <i>Cutting Edge Starter-Workbook without Key</i> 3. <i>Cutting Edge Starter-Teachers Resource Book</i>	Longman
31 (春)	村瀬寿代	経済	Timothy Kiggell Peter Bellars	<i>CUBIC LISTENING</i> — <i>Check In, Check Out</i> —	Macmillan Language House
32 (春)	本山晶子	経済		開講時指示する	
33 (春)	柳本麻美	経済	Stella Yamazaki 山崎達朗	<i>News Watch 3</i>	金星堂
34 (春)	吉田一穂	経済	James M. Vardaman	<i>Waves of the Future</i>	三修社
35 (春)	大原始子	経済	Casey Malarcher Byoung-man Jeon	<i>READING Culture and Comprehension 1</i>	Macmillan Language House
36 (春)	本山晶子	経済		開講時指示する	

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
37 (春)	柳本麻美	経済	Stella Yamazaki 山崎達朗	<i>News Watch 3</i>	金星堂
38 (春)	山本路恵	経済	Hiroko Katanoda W.R. Lawrenz	<i>A Shorter Course in TOEIC Test Listening</i>	南雲堂
39 (春)	中島剛	経済		プリントを用意する	
40 (春)	中島剛	経済		プリントを用意する	
51 (春)	木村博是	社会	T. O'Brien	<i>Spotlight on Britain</i>	南雲堂
52 (春)	坂本姫子	社会		開講時指示する	
53 (春)	釣井千恵	社会	山崎達朗 Stella M. Yamazaki	<i>News Watch 3</i>	金星堂
54 (春)	大川愛子	社会	Dale Fuller Clyde W. Grimm	<i>New Airwaves</i>	Macmillan Language House
55 (春)	木村博是	社会	T. O'Brien	<i>Spotlight on Britain</i>	南雲堂
56 (春)	坂本姫子	社会		開講時指示する	
57 (春)	西崎和子	社会	Patricia Kaye Flanigan	<i>Focus on Listening Part II</i>	松柏社
61 (春)	都築郷実	社会福祉	小中秀彦	大学生のための基礎英文法 <i>Oxford Learner's Pocket Dictionary (New Edition)</i>	成美堂 Oxford
62 (春)	今井由美子	社会福祉		共通教材以外のテキストは使用せず、自主作成した教材を使用予定です	
63 (春)	堀内真由美	社会福祉		<i>5-Minute Quizzes for the TOEIC Test: Basic Listening Workbook</i>	Macmillan Language House
71 (春)	佐藤充弘	経営	Shari J. Berman 他	<i>TOPIC BY TOPIC TOEIC LISTENING</i> (トピック別トピック・リスニング)	成美堂

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
72 (春)	横町 治子	経営	Donald Beaver 他	<i>Navigator for the TOEIC Test</i>	南雲堂
73 (春)	辻井 悦子	経営	Timothy Kiggell Clare Pollard	<i>Cubic Listening Intro</i>	Macmillan Language House
74 (春)	釣井 千恵	経営	山崎達朗 Stella M. Yamazaki	<i>News Watch 3</i>	金星堂
75 (春)	佐藤 充弘	経営	Shari J. Berman 他	<i>TOPIC BY TOPIC TOEIC LISTENING</i> 〈トピック別 トピック・リスニング〉	成美堂
76 (春)	横町 治子	経営	Donald Beaver 他	<i>Navigator for the TOEIC Test</i>	南雲堂
77 (春)	前田 淑江	経営	Jim Knudsen	<i>Short and Simple</i>	南雲堂
78 (春)	三宅 亨	経営		開講時指示する	
81 (春)	大石 正晴	法学	Kiyoshi Yukitoki	<i>Let's Travel Abroad</i>	松柏社
82 (春)	岡田 章子	法学	Jeremy Angel	<i>Long Live Animals!</i>	桐原書店
83 (春)	清水 真一	法学	Womack and Miura	<i>Building Better English Sentences</i>	成美堂
84 (春)	中村 祥子	法学	椋平 淳他著	<i>Curing the Future</i> — <i>Current Topics of Health</i>	成美堂
85 (春)	橋内 武	法学	Hidehiko Konaka	<i>Basic Grammar for Everyday Writing</i>	朝日出版社
86 (春)	藤森 かよ子	法学	Richard Powell	<i>Viewpoints in Law</i>	Macmillan Language House

「英語ⅡA」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 (秋)	釣井千恵	〈スポーツ推薦クラス〉	Casey Malarcher	<i>Reading Advantage 1</i>	Thomson
11 (春)	西崎和子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Brian Powle 他	<i>What a Story!</i>	南雲堂
12 (春)	Denise Haugh	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉			
13 (春)	三宅 亨	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉		開講時指示する	
14 (春)	辻井悦子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	仁木久恵・渡辺雅仁 Julia 高矢	<i>My English, My Self [revised]</i>	三修社
15 (春)	林 宅男	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Paul McLean	<i>Discussing Issues 1</i>	弓プレス
21 (秋)	吉田一穂	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Herman Bartelen Sean Ready	<i>Listening Power 1</i>	Macmillan Language House
22 (秋)	和栗了	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Masamichi Asama Colin Sloss	<i>Face It!</i> (異文化への視線)	南雲堂
31 (秋)	村瀬寿代	経 済	Timothy Kiggell Peter Bellars	<i>CUBIC LISTENING</i> — <i>Check In, Check Out</i> —	Macmillan Language House
32 (秋)	本山晶子	経 済		開講時指示する	
33 (秋)	柳本麻美	経 済	Stella Yamazaki 山崎達朗	<i>News Watch 3</i>	金星堂
34 (秋)	吉田一穂	経 済	James M. Vardaman	<i>Waves of the Future</i>	三修社
35 (秋)	大原始子	経 済	Casey Malarcher Byoung-man Jeon	<i>READING</i> <i>Culture and Comprehension 1</i>	Macmillan Language House
36 (秋)	本山晶子	経 済		開講時指示する	
37 (秋)	柳本麻美	経 済	Stella Yamazaki 山崎達朗	<i>News Watch 3</i>	金星堂

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
38 (秋)	山本路恵	経済	Hiroko Katanoda W.R. Lawrenz	<i>A Shorter Course in TOEIC Test Listening</i>	南雲堂
39 (秋)	中島剛	経済		プリントを用意する	
40 (秋)	中島剛	経済		プリントを用意する	
51 (秋)	木村博是	社会	T. O'Brien	<i>Spotlight on Britain</i>	南雲堂
52 (秋)	坂本姫子	社会		開講時指示する	
53 (秋)	釣井千恵	社会	山崎達朗 Stella M. Yamazaki	<i>News Watch 3</i>	金星堂
54 (秋)	大川愛子	社会	Dale Fuller Clyde W. Grimm	<i>New Airwaves</i>	Macmillan Language House
55 (秋)	木村博是	社会	T. O'Brien	<i>Spotlight on Britain</i>	南雲堂
56 (秋)	坂本姫子	社会		開講時指示する	
57 (秋)	西崎和子	社会			
61 (秋)	都築郷実	社会福祉	小中秀彦	大学生のための基礎英文法 <i>Oxford Learner's Pocket Dictionary (New Edition)</i>	成美堂 Oxford
62 (秋)	今井由美子	社会福祉		共通教材以外のテキストは使用せず、自主作成した教材を使用予定です。	
63 (秋)	堀内真由美	社会福祉		<i>5-Minute Quizzes for the TOEIC Test: Basic Listening Workbook</i>	Macmillan Language House
71 (秋)	佐藤充弘	経営	Shari J. Berman 他	<i>TOPIC BY TOPIC TOEIC LISTENING</i> 〈トピック別トピック・リスニング〉	成美堂
72 (秋)	横町治子	経営	Donald Beaver 他	<i>Navigator for the TOEIC Test</i>	南雲堂

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
73 (秋)	辻井悦子	経営	Timothy Kiggell Clare Pollard	<i>Cubic Listening Intro</i>	Macmillan Language House
74 (秋)	釣井千恵	経営	山崎達朗 Stella M. Yamazaki	<i>News Watch 3</i>	金星堂
75 (秋)	佐藤充弘	経営	Shari J. Berman 他	<i>TOPIC BY TOPIC TOEIC LISTENING</i> 〈トピック別トピック・リスニング〉	成美堂
76 (秋)	横町治子	経営	Donald Beaver 他	<i>Navigator for the TOEIC Test</i>	南雲堂
77 (秋)	前田淑江	経営	Jim Knudsen	<i>Short and Simple</i>	南雲堂
78 (秋)	三宅 亨	経営		開講時指示する	
81 (秋)	大石正晴	法学	Kiyoshi Yukitoki	<i>Let's Travel Abroad</i>	松柏社
82 (秋)	岡田章子	法学	Peter Hyland	Britain Today	成美堂
83 (秋)	清水真一	法学	Womack and Miura	<i>Building Better English Sentences</i>	成美堂
84 (秋)	中村祥子	法学	椋平 淳他著	<i>Curing the Future</i> — <i>Current Topics of Health</i>	成美堂
85 (秋)	橋内 武	法学	Hidehiko Konaka	<i>Basic Grammar for Everyday Writing</i>	朝日出版社
86 (秋)	藤森 かよ子	法学	Richard Powell	<i>Viewpoints in Law</i>	Macmillan Language House

「英語Ⅲ A」 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 (春)	伊藤 貞基	〈スポーツ推薦クラス〉	M.G. Vogel V. Johnson	『世界不思議物語』 (<i>Amazing Facts</i>)	金星堂
11 (春)	大井 映史	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	John Dougill	<i>Understanding Movies: A Study of Popular Film Genres</i>	Macmillan Language House
12 (春)	高倉 正行	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Takashi Ito Yashuhiro Ichikawa	<i>Netnews</i>	南雲堂
21 (秋)	大井 映史	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	John Dougill	<i>Understanding Movies: A Study of Popular Film Genres</i>	Macmillan Language House
22 (秋)	村瀬 寿代	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	穂本浩美 濱田真由美	<i>American Society in Focus</i> 映画で学ぶアメリカ社会	Macmillan Language House
23 (秋)	高倉 正行	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Takashi Ito Yashuhiro Ichikawa	<i>Netnews</i>	南雲堂
24 (秋)	和栗 了	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	大澤岳彦	<i>English in the Media 2004</i> (メディア英語で読む現代社会 2004)	金星堂
31 (春)	岩永 道子	経済	Motonobu Chiba 他	<i>Reading Mainstream of the World</i>	三修社
32 (春)	木村 博是	経済	T. O'Brien	<i>Bridge to College English</i>	南雲堂
33 (春)	木村 ゆみ	経済	D.E. Bramley 河合忠仁	基礎からはじめるコミュニケーション英作文	松柏社
34 (春)	渡邊 真理子	経済	Jim Knudsen 川端一男	<i>Japan Inside Out</i>	南雲堂
35 (春)	岩永 道子	経済	Motonobu Chiba 他	<i>Reading Mainstream of the World</i>	三修社
36 (春)	川上 与志夫	経済	James Tschudy	<i>Odds & Ends Essays on Everyday Conversation</i>	成美堂
37 (春)	木村 ゆみ	経済	D.E. Bramley 河合忠仁	基礎からはじめるコミュニケーション英作文	松柏社

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
38 (春)	西崎和子	経済	佐藤史郎等	<i>Top Entrepreneurs and the Road to Success</i>	Macmillan Language House
39 (春)	高倉正行	経済	Hideki Watanabe	<i>Time and Newsweek Look at Japanese Culture</i>	松柏社
40 (春)	今井由美子	経済	Motonobu Chiba Hideki Matsuo Kumiko Okazaki	<i>Reading Mainstream of the World</i> 英文読解のベスト・プラクティス	三修社
51 (春)	近藤摂子	社会	藤井章雄 他 編	<i>English for Mass Communication</i> — 2004 Edition —	朝日出版社
52 (春)	佐藤充弘	社会	Richard Powell	法社会の落とし穴	Macmillan Language House
53 (春)	橋本昇	社会	山本英一 他	<i>How to Express Japan's Current Topics in English</i>	英潮社
54 (春)	近藤摂子	社会	藤井章雄 他 編	<i>English for Mass Communication</i> — 2004 Edition —	朝日出版社
55 (春)	杉田トモ子	社会	木塚晴夫	<i>Let's Talk about Japan in English</i>	金星堂
56 (春)	橋本昇	社会	渡辺秀樹 他	アメリカ2大週刊誌に見る日本の危機	松柏社
61 (春)	杉田トモ子	社会福祉	木塚晴夫	<i>Let's Talk about Japan in English</i>	金星堂
62 (春)	大川愛子	社会福祉	Paul Stapleton	<i>Beneath the Surface</i>	成美堂
63 (春)	都築郷実	社会福祉	佐藤史郎 他	躍進する日本のベンチャー企業 <i>Longman Handy Learner's Dictionary of American English (New Edition)</i>	Macmillan Language House Longman
71 (春)	杉井正史	経営	Jim Knudsen 川端一男	<i>Japan Inside Out</i>	南雲堂
72 (春)	宮之原匡子	経営	上杉明 編 伊藤典子	ニュースメディアの英語 —演習と解説2004年度版—	朝日出版社

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
73 〈春〉	吉田一穂	経営	Adrian J. Pinnington	<i>Here and There Cultural Differences between Japan and Britain</i>	金星堂
74 〈春〉	大橋範子	経営	千葉元信・松尾秀樹 岡崎久美子	<i>Reading Mainstream of the World</i>	三修社
75 〈春〉	大原始子	経営	中林眞佐男・長尾素子 アランハント	<i>Intercultural Communication</i>	大阪教育図書
76 〈春〉	杉井正史	経営	Joseph Shaules 安部珠理	<i>Different Realities</i>	南雲堂
81 〈春〉	沖野泰子	法学	木塚春夫 R. Northridge	<i>Common Errors in English Writing 4th Edition</i>	Macmillan Language House
82 〈春〉	横山三鶴	法学	Haruo Kizuka Roger Northridge	<i>Common Errors in English Writing (Fourth Edition)</i>	Macmillan Language House
83 〈春〉	南條健助	法学		開講時までに指定	
84 〈春〉	川上与志夫	法学	Peter Duppenhaler	<i>Today's Japan in the World</i>	大阪教育図書
85 〈春〉	日下隆平	法学	石崎一樹 他	<i>English for Your Future 2 — Vocabulary and Reading —</i>	Macmillan Language House
86 〈春〉	Kevin R. Gregg	法学			

「英語ⅣA」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 (秋)	伊藤 貞基	〈スポーツ推薦クラス〉	M.G. Vogel V. Johnson	『世界不思議物語』 (<i>Amazing Facts</i>)	金星堂
11 (春)	西崎 和子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Stella M. Yamazaki 他	<i>Healthy Living in Today's Environment</i>	桐原書店
12 (春)	堀内 真由美	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Terry O'Brien 他	<i>Spotlight on Britain</i>	南雲堂
13 (春)	和栗 了	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	William M. Balsamo 廣田典子	<i>A Changing America in a New World</i> (アメリカの背景を読む)	金星堂
14 (春)	杉田 トモ子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	木塚晴夫	<i>Let's Talk about Japan in English</i>	金星堂
21 (秋)	木村 ゆみ	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	吉田秀次 M.D. Cannegieter	<i>Listen, Repeat, Talk</i> (後半使用)	鶴見書店
22 (秋)	杉田 トモ子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	木塚晴夫	<i>Let's Talk about Japan in English</i>	金星堂
31 (秋)	岩永 道子	経 済	Motonobu Chiba 他	<i>Reading Mainstream of the World</i>	三修社
32 (秋)	木村 博是	経 済	T. O'Brien	<i>Bridge to College English</i>	南雲堂
33 (秋)	木村 ゆみ	経 済	D.E. Bramley 河合忠仁	基礎からはじめるコミュニケ ーション英作文	松柏社
34 (秋)	渡邊 真理子	経 済	Jim Knudsen 川端一男	<i>Japan Inside Out</i>	南雲堂
35 (秋)	岩永 道子	経 済	Motonobu Chiba 他	<i>Reading Mainstream of the World</i>	三修社
36 (秋)	川上 与志夫	経 済			
37 (秋)	木村 ゆみ	経 済	D.E. Bramley 河合忠仁	基礎からはじめるコミュニケ ーション英作文	松柏社
38 (秋)	西崎 和子	経 済			

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
39 (秋)	高倉正行	経済	Hideki Watanabe	<i>Time and Newsweek Look at Japanese Culture</i>	松柏社
40 (秋)	今井由美子	経済	Motonobu Chiba Hideki Matsuo Kumiko Okazaki	<i>Reading Mainstream of the World</i> 英文読解のベスト・プラクティス	三修社
51 (秋)	近藤撰子	社会	藤井章雄 他 編	<i>English for Mass Communication</i> — 2004 Edition —	朝日出版社
52 (秋)	佐藤充弘	社会	Richard Powell	法社会の落とし穴	Macmillan Language House
53 (秋)	橋本昇	社会	山本英一 他	<i>How to Express Japan's Current Topics in English</i>	英潮社
54 (秋)	近藤撰子	社会	藤井章雄 他 編	<i>English for Mass Communication</i> — 2004 Edition —	朝日出版社
55 (秋)	杉田トモ子	社会		春学期のテキストを継続使用します	
56 (秋)	橋本昇	社会	町田哲司 他	大学生の TOEIC	朝日出版社
61 (秋)	杉田トモ子	社会福祉		春学期のテキストを継続使用します	
62 (秋)	大川愛子	社会福祉	Paul Stapleton	Beneath the Surface	成美堂
63 (秋)	都築郷実	社会福祉	佐藤史郎 他	躍進する日本のベンチャー企業 <i>Longman Handy Learner's Dictionary of American English</i> (New Edition)	Macmillan Language House Longman
71 (秋)	杉井正史	経営	Jim Knudsen 川端一男	<i>Japan Inside Out</i>	南雲堂
72 (秋)	宮之原匡子	経営	上杉明 編 伊藤典子	ニュースメディアの英語 — 演習と解説2004年度版 —	朝日出版社
73 (秋)	吉田一穂	経営	Adrian J. Pinnington	<i>Here and There</i> <i>Cultural Differences between Japan and Britain</i>	金星堂

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
74 (秋)	大橋 範子	経営	千葉元信・松尾秀樹 岡崎久美子	<i>Reading Mainstream of the World</i>	三修社
75 (秋)	大原 始子	経営	中林真佐男・長尾素子 アランハント	<i>Intercultural Communication</i>	大阪教育図書
76 (秋)	杉井 正史	経営	Joseph Shaules 安部珠理	<i>Different Realities</i>	南雲堂
81 (秋)	沖野 泰子	法学	J.A. Johnson M.L. Higgins	<i>Comprehensive English Fundamental Course Book A</i>	Macmillan Language House
82 (秋)	横山 三鶴	法学	Hisae Niki Masahito Watanabe Julia Takaya	<i>My English, My Self [revised]</i>	三修社
83 (秋)	南條 健助	法学		開講時までに指定	
84 (秋)	川上 与志夫	法学			
85 (秋)	日下 隆平	法学	石崎一樹 他	<i>English for Your Future 2 — Vocabulary and Reading —</i>	Macmillan Language House
86 (秋)	Kevin R. Gregg	法学			

「英語 I B」 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 (春)	Michael Carroll	〈スポーツ推薦クラス〉			
11 (春)	今井由美子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	John S. Lander	<i>American Voyager</i> アメリカン・ボイジャー ——ビデオで巡るアメリカ——	Asahi Press
12 (春)	橋本昇	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Terry O'Brien	Spotlight on Britain	南雲堂
21 (秋)	今井由美子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	John S. Lander	<i>American Voyager</i> アメリカン・ボイジャー ——ビデオで巡るアメリカ——	Asahi Press
22 (秋)	Denise Haugh	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉			
23 (秋)	橋本昇	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Terry O'Brien	<i>Spotlight on Britain</i>	南雲堂
24 (秋)	林宅男	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Paul McLean	<i>Discussing Issues I</i>	弓プレス
25 (秋)	三宅亨	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉		開講時指示する	
31 (春)	Lynne Douglas	経済			
32 (春)	Denise Haugh	経済			
33 (春)	Sandra Healy	経済	S. Cunningham P. Moor	1. <i>Cutting Edge Starter-Students Book</i> 2. <i>Cutting Edge Starter-Workbook without Key</i>	Longman
34 (春)	Philip Billingsley	経済		開講時指示する	
35 (春)	Ronald Cline	経済			
36 (春)	Denise Haugh	経済			

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
37 (春)	Sandra Healy	経済	S. Cunningham P. Moor	1. <i>Cutting Edge Starter-Students Book</i> 2. <i>Cutting Edge Starter-Workbook without Key</i>	Longman
38 (春)	Ellen Head	経済			
39 (春)	Carlquist L. Harris	経済	Molinsky, Bliss	<i>Side by Side 2</i> ① <i>Text</i> , ② <i>Workbook</i>	Longman
40 (春)	Ellen Head	経済			
51 (春)	Ronald Cline	社会			
52 (春)	Denise Haugh	社会			
53 (春)	Ellen Head	社会			
54 (春)	Lynne Douglas	社会			
55 (春)	Denise Haugh	社会			
56 (春)	Carlquist L. Harris	社会	Molinsky, Bliss	<i>Side by Side 2</i> ① <i>Text</i> , ② <i>Workbook</i>	Longman
57 (春)	Steven Silsbee	社会	David Nunan Ken Beatty	<i>Expressions INTRO</i>	THOMSON HEINLE
61 (春)	Steven Silsbee	社会福祉	David Nunan Ken Beatty	<i>Expressions INTRO</i>	THOMSON HEINLE
62 (春)	Denise Haugh	社会福祉			
63 (春)	Jeffrey Herrick	社会福祉	Richard R. Day Junko Yamanaka	<i>Impact Topics</i>	Longman
71 (春)	Daniel M. Walsh	経営	Wilson, W. Barnard, R.	<i>FIFTY-FIFTY: BOOK ONE</i> <i>ISBN 0-13-920000-2</i>	Longman
72 (春)	David T. VanHam	経営			

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
73 (春)	Marien Harrison	経営			
74 (春)	Philip Billingsley	経営		開講時指示する	
75 (春)	Daniel M. Walsh	経営	Wilson, W. Barnard, R.	<i>FIFTY-FIFTY: BOOK ONE</i> ISBN 0-13-920000-2	Longman
76 (春)	Jeffrey Herrick	経営	Richard R. Day Junko Yamanaka	<i>Impact Topics</i>	Longman
77 (春)	Raoul Cervantes	経営	Jack Richards	<i>Basic Tactics for Listening</i>	Oxford
78 (春)	Lynne Douglas	経営			
81 (春)	清水真一	法学		プリント配布	
82 (春)	中村祥子	法学	Joseph Shaules 他著	<i>Fish in Water: The Hidden Influence of Media in Our Lives</i>	Macmillan Language House
83 (春)	釣井千恵	法学	山崎達朗 Stella M. Yamazaki	<i>News Watch 3</i>	金星堂
84 (春)	藤森かよ子	法学	山口俊治 Timothy Minton	<i>The Road from Writing to Speaking</i>	成美堂
85 (春)	大石正晴	法学	Junko Kobayashi Tamarah Cohen	<i>Broadening Your Cultural Horizons</i>	成美堂
86 (春)	岡田章子	法学	L.D. Peach	<i>Florence Nightingale and Madame Curie</i>	北星堂

「英語ⅡB」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 (秋)	Michael Carroll	〈スポーツ推薦クラス〉			
11 (春)	村瀬 寿代	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	穂本浩美 濱田真由美	<i>American Society in Focus</i> 映画で学ぶアメリカ社会	Macmillan Language House
12 (春)	吉田 一穂	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Herman Bartelen Sean Reedy	<i>Listening Power 1</i>	Macmillan Language House
13 (春)	Lynne Douglas	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉			
14 (春)	Marien Harrison	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉			
15 (春)	和栗 了	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Christofer Bullsmith Tsuyoshi Chiba Hiromi Kinoshita	<i>Daily Communication</i>	南雲堂
21 (秋)	西崎 和子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	松井顕敏 他	<i>Day-to-Day Information</i> 2003/2004	弓プレス
22 (秋)	辻井悦子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	仁木久恵・渡辺雅仁 Julia 高矢	<i>My English, My Self [revised]</i>	三修社
31 (秋)	Lynne Douglas	経 済			
32 (秋)	Denise Haugh	経 済			
33 (秋)	Sandra Healy	経 済		<i>Continue Using Cutting Edge</i> <i>Starter</i>	
34 (秋)	Philip Billingsley	経 済		開講時指示する	
35 (秋)	Ronald Cline	経 済			
36 (秋)	Denise Haugh	経 済			
37 (秋)	Sandra Healy	経 済		<i>Continue Using Cutting Edge</i> <i>Starter</i>	

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
38 (秋)	Ellen Head	経済			
39 (秋)	Carlquist L. Harris	経済			
40 (秋)	Ellen Head	経済			
51 (秋)	Ronald Cline	社会			
52 (秋)	Denise Haugh	社会			
53 (秋)	Ellen Head	社会			
54 (秋)	Lynne Douglas	社会			
55 (秋)	Denise Haugh	社会			
56 (秋)	Carlquist L. Harris	社会			
57 (秋)	Steven Silsbee	社会	David Nunan Ken Beatty	<i>Expressions INTRO</i>	THOMSON HEINLE
61 (秋)	Steven Silsbee	社会福祉	David Nunan Ken Beatty	<i>Expressions INTRO</i>	THOMSON HEINLE
62 (秋)	Denise Haugh	社会福祉			
63 (秋)	Jeffrey Herrick	社会福祉	Richard R. Day Junko Yamanaka	<i>Impact Topics</i>	Longman
71 (秋)	Daniel M. Walsh	経営	Wilson, W. Barnard, R.	<i>FIFTY-FIFTY: BOOK ONE</i> <i>ISBN 0-13-920000-2</i>	Longman
72 (秋)	David T. VanHam	経営			
73 (秋)	Marlen Harrison	経営			

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
74 (秋)	Philip Billingsley	経営		開講時指示する	
75 (秋)	Daniel M. Walsh	経営	Wilson, W. Barnard, R.	<i>FIFTY-FIFTY: BOOK ONE</i> ISBN 0-13-920000-2	Longman
76 (秋)	Jeffrey Herrick	経営	Richard R. Day Junko Yamanaka	<i>Impact Topics</i>	Longman
77 (秋)	Raoul Cervantes	経営	Jack Richards	<i>Basic Tactics for Listening</i>	Oxford
78 (秋)	Lynne Douglas	経営			
81 (秋)	清水真一	法学		プリント配布	
82 (秋)	中村祥子	法学	Joseph Shaules 他著	<i>Fish in Water: The Hidden Influence of Media in Our Lives</i>	Macmillan Language House
83 (秋)	釣井千恵	法学	山崎達朗 Stella M. Yamazaki	<i>News Watch 3</i>	金星堂
84 (秋)	藤森かよ子	法学	山口俊治 Timothy Minton	<i>The Road from Writing to Speaking</i>	成美堂
85 (秋)	大石正晴	法学	Junko Kobayashi Tamarah Cohen	<i>Broadening Your Cultural Horizons</i>	成美堂
86 (秋)	岡田章子	法学	Joseph Lieberman	<i>Adventure Travel Stories</i>	英潮社

「英語Ⅲ B」 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 (春)	Raoul Cervantes	〈スポーツ推薦クラス〉	Steve Molinsky Jack Richards	<i>Side by Side Book 1</i> <i>Basic Tactics for Listening</i>	Longman Oxford
11 (春)	Louise Pender	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉			
12 (春)	Louise Pender	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉			
21 (秋)	Louise Pender	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉			
22 (秋)	Louise Pender	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉			
23 (秋)	David T. VanHam	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Charles Cushman	<i>Active Reading</i>	EFL Press
24 (秋)	横山三鶴	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Jack Brajcich 谷岡敏博	<i>Upward American Culture</i> もっと知りたいアメリカ文化	松柏社
31 (春)	Lynne Douglas	経済			
32 (春)	Steven Silsbee	経済	David Nunan Ken Beatty	<i>Expressions INTRO</i>	THOMSON HEINLE
33 (春)	Ellen Head	経済	Terry O'Brien	<i>Clearly Britain, Clearly Japan</i>	南雲堂
34 (春)	Marien Harrison	経済			
35 (春)	Robert B. Sanderson	経済		開講時に指示する	
36 (春)	Denise Haugh	経済			
37 (春)	Carlquist L. Harris	経済			
38 (春)	Marien Harrison	経済			
39 (春)	Louise Pender	経済			

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
40 (春)	Louise Pender	経済			
51 (春)	Daniel M. Walsh	社会	Greenall, S.	<i>PEOPLE LIKE US</i> ISBN 4-89585-445-0	Macmillan Language House
52 (春)	前田淑江	社会	Peter Weld	<i>The World Ahead</i>	金星堂
53 (春)	Ellen Head	社会			
54 (春)	Daniel M. Walsh	社会	Greenall, S.	<i>PEOPLE LIKE US</i> ISBN 4-89585-445-0	Macmillan Language House
55 (春)	Terence J. O'Brien	社会	Terry O'Brien	<i>Spotlight on Britain</i>	南雲堂
56 (春)	前田淑江	社会	Peter Weld	<i>The World Ahead</i>	金星堂
61 (春)	Ellen Head	社会福祉			
62 (春)	村瀬寿代	社会福祉	Gillian Flaherty Chris Coey	<i>Extensive Reader Book 2</i>	成美堂
63 (春)	柳本麻美	社会福祉	Sakae Onoda Lucy Cooker	<i>Understanding the News in English</i>	金星堂
71 (春)	大井映史	経営	Goldberg, S.	<i>The Blunder Book</i>	北星堂
72 (春)	村瀬寿代	経営	Gillian Flaherty Chris Coey	<i>Extensive Reader Book 2</i>	成美堂
73 (春)	柳本麻美	経営	Sakae Onoda Lucy Cooker	<i>Understanding the News in English</i>	金星堂
74 (春)	大井映史	経営	松本昇他編	<i>Enjoy English</i>	朝日出版社
75 (春)	Ronald Cline	経営			
76 (春)	Marlen Harrison	経営			

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
81 〈春〉	横山三鶴	法学	沖野泰子・南條健助 森岡裕一・山科美和子 横山三鶴	<i>Music of the Heart</i> — 映画・音楽・リスニング —	英宝社
82 〈春〉	南條健助	法学		開講時までに指定	
83 〈春〉	沖野泰子	法学	沖野泰子・南條健助 森岡裕一・山科美和子 横山三鶴	<i>Music of the Heart</i>	英宝社
84 〈春〉	日下隆平	法学	石崎一樹 他	<i>English for Your Future 2</i> — Vocabulary and Reading —	Macmillan Language House
85 〈春〉	Kevin R. Gregg	法学			
86 〈春〉	川上与志夫	法学	Kuzumi, Kazushi 九頭見一士	<i>The Kaleidoscope of Life</i>	南雲堂

「英語ⅣB」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01 (秋)	Raoul Cervantes	〈スポーツ推薦クラス〉			
11 (春)	木村 ゆみ	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	吉田秀次 M.D. Cannegieter	<i>Listen, Repeat, Talk</i> (前半使用)	鶴見書店
12 (春)	佐々木 英 哲	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	黒川省三・Judy A. Awaya-Kurokawa Jason B. Adler	TOEFL テスト受験対策ポキャ ブラリー編	研究社出版
13 (春)	杉 田 トモ子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	高田治美・平田三樹子 今西美佐子	<i>News Break</i> —— 「毎日ウィークリー」を読む	郁文堂
14 (春)	Lynne Douglas	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉			
21 (秋)	西 崎 和 子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Peter Weld	<i>The World Ahead</i>	金星堂
22 (秋)	堀 内 真由美	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Terry O'Brien 他	<i>Spotlight on Britain</i>	南雲堂
31 (秋)	Lynne Douglas	経 済			
32 (秋)	Steven Silsbee	経 済	David Nunan Ken Beatty	<i>Expressions INTRO</i>	THOMSON HEINLE
33 (秋)	Ellen Head	経 済	Terry O'Brien	<i>Clearly Britain, Clearly Japan</i>	南雲堂
34 (秋)	Marlen Harrison	経 済			
35 (秋)	Robert B. Sanderson	経 済		開講時に指示する	
36 (秋)	Denise Haugh	経 済			
37 (秋)	Carlquist L. Harris	経 済			
38 (秋)	Marlen Harrison	経 済			

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
39 (秋)	Louise Pender	経済			
40 (秋)	Louise Pender	経済			
51 (秋)	Daniel M. Walsh	社会	長谷川潔・秋山高二 L.P. Sanders	<i>ASIAN CROSSROADS</i> ISBN 4-7919-4552-2	成美堂
52 (秋)	前田淑江	社会	Peter Weld	<i>The World Ahead</i>	金星堂
53 (秋)	Ellen Head	社会			
54 (秋)	Daniel M. Walsh	社会	長谷川潔・秋山高二 L.P. Sanders	<i>ASIAN CROSSROADS</i> ISBN 4-7919-4552-2	成美堂
55 (秋)	Terence J. O'Brien	社会	Terry O'Brien	<i>Spotlight on Britain</i>	南雲堂
56 (秋)	前田淑江	社会	Peter Weld	<i>The World Ahead</i>	金星堂
61 (秋)	Ellen Head	社会福祉			
62 (秋)	村瀬寿代	社会福祉	Gillian Flaherty Chris Coey	<i>Extensive Reader Book 2</i>	成美堂
63 (秋)	柳本麻美	社会福祉	Sakae Onoda Lucy Cooker	<i>Understanding the News in English</i>	金星堂
71 (秋)	大井映史	経営	Goldberg, S.	<i>The Blunder Book</i>	北星堂
72 (秋)	村瀬寿代	経営	Gillian Flaherty Chris Coey	<i>Extensive Reader Book 2</i>	成美堂
73 (秋)	柳本麻美	経営	Sakae Onoda Lucy Cooker	<i>Understanding the News in English</i>	金星堂
74 (秋)	大井映史	経営	松本昇他編	<i>Enjoy English</i>	朝日出版社
75 (秋)	Ronald Cline	経営			
76 (秋)	Marlen Harrison	経営			

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
81 (秋)	横山三鶴	法学	Joan McConnell Shuichi Takeda	<i>Rapid Reading with TOEIC Test Vocabulary</i>	成美堂
82 (秋)	南條健助	法学		開講時までに指定	
83 (秋)	沖野泰子	法学	J. McConnell 武田修一	速読と TOEIC テストボキャ ブラリー	成美堂
84 (秋)	日下隆平	法学	石崎一樹 他	<i>English for Your Future 2</i> — <i>Vocabulary and Reading</i> —	Macmillan Language House
85 (秋)	Kevin R. Gregg	法学			
86 (秋)	川上与志夫	法学			

「文学部英語科目共通テキスト」

A. 04年度入学者〈文学部共通：リーディングI, II〉 文学部の皆さんが、授業中使用する共通テキストです			
	著 者 名	使 用 教 科 書	出 版 社
1	黒川 他	TOEFL テスト受験対策 ボキャブラリー篇	研 究 社

B. 03年度入学者〈文学部共通：リーディングIII, IV〉 文学部（全学科生）の皆さんが、授業中使用する共通テキストです			
	著 者 名	使 用 教 科 書	出 版 社
1	村川・杉本 他	TOEFL TEST PERFECT VOCABURARY —— 4 th edition	旺 文 社

「リーディング I」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 (春集)	上田 洋子	文学部 (学科必修)	小河奈保子 吉田由美子 他	パラグラフ中心の英語基礎演習	金星堂
12 (春集)	上村 淳子	文学部 (学科必修)	Rebecca L. Oxford	<i>Tapestry Reading 2</i>	松柏社
13 (春集)	山科 美和子	文学部 (学科必修)	Anderson, N.J. Kawamata, M.	<i>Basic Skills for Reading</i>	成美堂
14 (春集)	上田 洋子	文学部 (学科必修)	小河奈保子 吉田由美子 他	パラグラフ中心の英語基礎演習	金星堂
15 (春集)	上村 淳子	文学部 (学科必修)	Neil J. Anderson Kawamata Masayuki	<i>Basic Skills for Reading</i>	成美堂
16 (春集)	山科 美和子	文学部 (学科必修)	Anderson, N.J. Kawamata, M.	<i>Basic Skills for Reading</i>	成美堂
17 (春集)	大川 愛子	文学部 (学科必修)	Shinji Kimura Yuko Shimizu	<i>Independent Reader: Improving Essential Reading Skills</i>	Macmillan Language House
18 (春集)	都築 郷実	文学部 (学科必修)	石黒昭博 他	英語語彙と表現の総合演習 <i>Longman Dictionary of Contemporary English Paper with CD-ROM (New Edition)</i>	英宝社 Longman
19 (春集)	佐々木 英哲	文学部 (学科必修)	黒川省三・Judy A. Awaya-Kurokawa Jason B. Atler	TOEFL テスト受験対策ボキャ ブラリー編	研究社出版

「リーディングⅡ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 (秋集)	上田 洋子	文学部 <学科必修>	千葉元信 他	<i>Reading Mainstream of the World</i>	三修社
12 (秋集)	上村 淳子	文学部 <学科必修>		授業中に指示する	
13 (秋集)	山科 美和子	文学部 <学科必修>	Smith, L.C. Mare, N.N.	<i>Insights for Today 2nd Edition</i>	松柏社
14 (秋集)	上田 洋子	文学部 <学科必修>	千葉元信 他	<i>Reading Mainstream of the World</i>	三修社
15 (秋集)	上村 淳子	文学部 <学科必修>		授業中に指示する	
16 (秋集)	山科 美和子	文学部 <学科必修>	Smith, L.C. Mare, N.N.	<i>Insights for Today 2nd Edition</i>	松柏社
17 (秋集)	大川 愛子	文学部 <学科必修>	Shinji Kimura Yuko Shimizu	<i>Independent Reader: Improving Essential Reading Skills</i>	Macmillan Language House
18 (秋集)	都築 郷実	文学部 <学科必修>	石黒昭博 他	時事英語で学ぶ英作文 <i>Longman Dictionary of Contemporary English Paper with CD-ROM (New Edition)</i>	英宝社 Longman
19 (秋集)	林 宅男	文学部 <学科必修>	Thomas J. Swinscoe	<i>Reading for Real</i> — <i>An Intermediate Reading Text</i> (他にプリント教材も使用する。)	松柏社 Newbury House Heinle & Heinle

「リーディングⅢ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 (春集)	葛原香代子	英語英米 (学科必修)	Kazushi Kuzumi Hiroaki Natsume Etsu Kawaguchi Yoriko Kitagawa	<i>Multiple Voices from around the World</i>	朝日出版社
12 (春集)	笹井悦子	英語英米 (学科必修)	Tom Power 舟木干雅・舟木攝 Mark Furr	<i>World Topics: From TIME Reading to CNN News Listening</i>	松柏社
13 (春集)	葛原香代子	英語英米 (学科必修)	Braven Smillie Hiromi Nema	<i>Changing Ideas Around Us</i>	英潮社
14 (春集)	笹井悦子	英語英米 (学科必修)	Alan E. Jackson Hiroko Uchida	<i>MORE NEWS and VIEWS from the Japan Times Weekly</i>	Macmillan Language House
51 (春集)	大石正晴	国際文化 (学科必修)	Joan McConnell	<i>Language and Culture in the 21st Century</i>	成美堂
52 (春集)	中井紀明	国際文化 (学科必修)	中井紀明 編	リーディングⅢ教材 (プリント)	
53 (春集)	Marlen Harrison	国際文化 (学科必修)	① Miluleky Jeffries ②③ Oxford Bookworms	① <i>Reading Power</i> ② <i>The Phantom of the Opera</i> ③ <i>Dracula</i>	Longman Oxford
54 (春集)	Lynne Douglas	国際文化 (学科必修)			
55 (春集)	Ellen Head	国際文化 (学科必修)	O. Henry	<i>"New Yorkers" Short Stories</i>	Oxford
56 (春集)	Marlen Harrison	国際文化 (学科必修)	① Miluleky Jeffries ②③ Oxford Bookworms	① <i>Reading Power</i> ② <i>The Phantom of the Opera</i> ③ <i>Dracula</i>	Longman Oxford

「リーディングⅣ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 (秋集)	葛原 香代子	英語英米 (学科必修)		開講時に指示します	
12 (秋集)	笹井 悦子	英語英米 (学科必修)		開講時に指示します	
13 (秋集)	葛原 香代子	英語英米 (学科必修)		開講時に指示します	
14 (秋集)	笹井 悦子	英語英米 (学科必修)		開講時に指示します	

「オーラルコミュニケーションⅠ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 (春集)	Robert B. Sanderson	文学部 (学科必修)		開講時に指示する	
12 (春集)	Carlquist L. Harris	文学部 (学科必修)	Molinsky, Bliss	<i>Side by Side 2</i> ① <i>Text</i> , ② <i>Workbook</i>	Longman
13 (春集)	Michael Carroll	文学部 (学科必修)	Jack C. Richard	<i>Springboard 2</i>	Oxford
14 (春集)	Robert B. Sanderson	文学部 (学科必修)		開講時に指示する	
15 (春集)	Lynne Douglas	文学部 (学科必修)			
16 (春集)	Terence J. O'Brien	文学部 (学科必修)	Terry O'Brien	<i>A Trip to Britain</i>	南雲堂
17 (春集)	Kathryn L. マルヤマ	文学部 (学科必修)	Tom Kenny Linda Woo	<i>Nice Talking with You</i> - <i>Second Edition</i> (Code 4-89585-503-1)	Macmillan Language House
18 (春集)	David T. VanHam	文学部 (学科必修)	Marc Helgesen	<i>English Firsthand 1</i> (<i>New Gold Edition</i>) ISBN 962-00-5345-1	Longman
19 (春集)	Ronald Cline	文学部 (学科必修)			
20 (春集)	Robert B. Sanderson	文学部 (学科必修)		開講時に指示する	
21 (春集)	Ellen Head	文学部 (学科必修)	Kirsty McLean	<i>Topic Talk : Issues</i>	EFL Press

「オーラルコミュニケーションⅡ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 (秋集)	Robert B. Sanderson	文学部 〈学科必修〉		開講時に指示する	
12 (秋集)	Carlquist L. Harris	文学部 〈学科必修〉			
13 (秋集)	Michael Carroll	文学部 〈学科必修〉	Jack C. Richard	<i>Springboard 2</i>	Oxford
14 (秋集)	Robert B. Sanderson	文学部 〈学科必修〉		開講時に指示する	
15 (秋集)	Lynne Douglas	文学部 〈学科必修〉			
16 (秋集)	Terence J. O'Brien	文学部 〈学科必修〉	Terry O'Brien	<i>Clearly Britain, Clearly Japan</i>	南雲堂
17 (秋集)	Kathryn L. マルヤマ	文学部 〈学科必修〉	Dale Fulles Corey Fulles	<i>Face to Face</i> (Code 4-89585-300-4)	Macmillan Language House
18 (秋集)	David T. VanHam	文学部 〈学科必修〉	Marc Helgesen	<i>English Firsthand I</i> (New Gold Edition) ISBN 962-00-5345-1	Longman
19 (秋集)	Ronald Cline	文学部 〈学科必修〉			
20 (秋集)	Robert B. Sanderson	文学部 〈学科必修〉		開講時に指示する	
21 (秋集)	Ellen Head	文学部 〈学科必修〉	Kirsty McLean	<i>Topic Talk : Issues</i>	EFL Press
22 (秋集)	Lynne Douglas	文学部 〈学科必修〉			
23 (秋集)	Marlen Harrison	文学部 〈学科必修〉	KENNY WOO	<i>NICE TALKING WITH YOU</i>	Macmillan Language House

「オーラルコミュニケーションⅢ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 (春集)	Terence J. O'Brien	英語英米 〈学科必修〉	Terry O'Brien	<i>Spotlight on Britain</i>	南雲堂
12 (春集)	Kathryn L. マルヤマ	英語英米 〈学科必修〉	Geraldine Sweeny Olivia Johnston Mark Farrell	<i>Ideas & Issues - intermediate</i> (Code 4-89585-319-5)	Macmillan Language House
13 (春集)	Jeffery Herrick	英語英米 〈学科必修〉			
14 (春集)	David T. VanHam	英語英米 〈学科必修〉	Dale Fuller	<i>FACE TO FACE</i> ISBN 89585-300-4	Macmillan Language House
15 (春集)	Jeffery Herrick	英語英米 〈学科必修〉			

「オーラルコミュニケーションⅣ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
	橋本 昇	英語英米 〈学科必修〉	Terry O'Brien	<i>Clearly Britain, Clearly Japan</i>	南雲堂

「ライティング I」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11 (秋集)	Terence J. O'Brien	英語英米 〈学科必修〉			
12 (秋集)	Kathryn L. マルヤマ	英語英米 〈学科必修〉	Hisatake Jimbo Richard B. Musto	<i>Paragraphs That Communicate</i> (Code 4-89585-180-X)	Macmillan Language House
13 (秋集)	Jeffrey Herrick	英語英米 〈学科必修〉	Alice Oshima Ann Hogue	<i>Introduction to Academic Writing</i>	Addison- wesley
14 (秋集)	David T. VanHam	英語英米 〈学科必修〉	George M. Rooks	<i>SHARE YOUR PARAGRAPH</i> ISBN 0-13-660796-9	Longman
15 (秋集)	Jeffrey Herrick	英語英米 〈学科必修〉	Alice Oshima Ann Hogue	<i>Introduction to Academic Writing</i>	Addison- wesley
51 (秋集)	大石正晴	国際文化 〈学科必修〉			
52 (秋集)	中井紀明	国際文化 〈学科必修〉	Paul Mcdean	<i>Easy Writing</i>	Macmillan Language House
53 (秋集)	Marlen Harrison	国際文化 〈学科必修〉	KITAO KITAO	<i>WRITING ENGLISH PARAGRAPHS</i>	
54 (秋集)	Lynne Douglas	国際文化 〈学科必修〉			
55 (秋集)	Ellen Head	国際文化 〈学科必修〉			
56 (秋集)	Marlen Harrison	国際文化 〈学科必修〉	KITAO KITAO	<i>WRITING ENGLISH PARAGRAPHS</i>	
57 (秋集)	伊藤貞基	国際文化 〈学科必修〉	岸野英治	『コミュニケーションのための 英文法・英作文』 (<i>An English Grammar and Composition for Communication</i>)	英宝社

<文学部国際文化学科 学科選択科目>

「リーディングⅣ ・ ライティングⅡ」

－ 応募要領 －

1. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。
2. これらの科目は、学則上文学部国際文化学科教育科目の「学科選択科目（2単位）」に位置づけられています。
3. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に予備登録（先着順受付）が必要です。

対 象 者 ： 02・03 LI生

定 員 ： 【リーディングⅣ】 40名
 【ライティングⅡ】 30名

予備登録日時 ： 3月23日（火） 9:10～15:00（11:30～12:30 昼休憩）

場 所 ： 教務課窓口

申 込 方 法 ： 先着順に受付決定します。教務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

< 注 意 > ① **学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。**

② 申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限を確認し、当日クラス番号が言えるよう準備しておいてください。

〈国際文化学科 学科選択科目〉リーディングⅣ・ライティングⅡ 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
〈リーディングⅣ〉					
	横町治子	国際文化		講義時に指示	
〈ライティングⅡ〉					
	橋本昇	国際文化	岸野英治	大学生のための表現英文法・英作文	英宝社

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
<p>体育・スポーツ学講義</p>		<p>春学期</p>	<p>2 単位</p>	<p>コ ソン ハ 高 成 廈</p>
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>現在では、健康を“WELLNES”（良好な状態）ととらえる考え方が大勢を占めている。“WELLNES”は個人の責任や管理のもとで、最適な健康を求めるライフスタイルとみなされている。したがって、健康はできる限り良好な状態を実現するために生涯にわたっておこなわれるアプローチである。</p> <p>現代社会における体育・スポーツの諸問題を認識し「スポーツとは何か」について深く考え、生活の中にスポーツを取り入れ、健康的な生活習慣の確立と実践をねらいとする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 現代社会と体育・スポーツ 2, 日本のスポーツ政策の現状 3, 企業スポーツの現状 4, JリーグとKリーグ 5, プロとアマチュア 6, スポーツ・ナショナリズム 6, 体力づくりの方法 7, 諸外国のスポーツ事情 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト2回を課して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>「スポーツとは何か」 玉木正之（著） 講談社現代新書</p>			
<p>[教科書]</p> <p>資料をプリント配布する。</p>				

